

脳卒中の医療体制の整備のための研究について

当院では、より質の高い医療・公衆衛生の向上のため、私達が行っている医療の内容を客観的に評価しながら、さらに改善させてゆくことが大事だと考えております。

そこで、当院では研究機関と協力して、お受けになった入院及び外来診療に関するデータを完全に匿名化した状態で収集して客観的に分析し、医療や施設運営の質を一層向上されることをめざしております。

【研究参加と既存情報の提供についての公開情報】

① 試料・情報の利用目的及び利用方法、他の機関への提供方法

構成労働科学研究費補助金 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業（以下「J-ASPECT Study」という。）「脳卒中の医療体制の整備のための研究」において、診療施設の DPC(Diagnosis Procedure Combination ; 診断群分類)データ若しくは匿名化処理した医科レセプトデータにより、脳神経外科関連の傷病名等に基づいて対象症例を絞り込んだ全国規模のデータベースを構築し、今後の脳卒中関連の研究等に活用するとともに、医療施設の負担を抑えた方法で脳卒中症例のデータベースの構築を継続することを目的に、SSL/TLS により暗号化した上でオンラインによる電子的送付により J-ASPECT Study 事務局（九州大学大学院医学研究院脳神経外科）へ提供する。

② 利用し、又は提供する試料・情報の項目

厚生労働により規定され作成された D P C データ及び外来 EF 統合ファイル（平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月のデータ。性別・入院時年齢、入院時診断名・入院時併存症病名・入院後合併症病名とそれらの ICD-10 コード，手術処置名、実施日、使用された薬剤・医療材料，在院日数，退院時転帰，費用などであり、データは匿名化処理がされています。個人情報提供されることはありません。）

③ 利用する者の範囲

「脳卒中の医療体制の整備のための研究」を実施する研究者

研究代表者 九州大学大学院医学研究院 脳神経外科教授 飯原 弘二

その他、日本脳神経学会の教育訓練施設、日本脳卒中学会の認定研修教育施設、日本神経学会の教育施設・准教育施設のうち、レセプト情報等のデータ情報提供の同意があった施設

④ 試料・情報の管理についての責任者

独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院 医事課長